地域展開部門

全体活動名；　「 森・里・海の繋がりの価値観を紡ぎなおす地域創生海洋教育の展開 」

学校名	熊本県立岱志高等学校
活動名	里海の大切さを認識し、ラムサール条約登録湿地となった荒尾干潟の環境調査を行う。

活動のねらい；　2012 年 7 月に荒尾干潟がラムサール条約登録湿地となってより、荒尾高校理数科が干潟の研究を行ってきた、高校再編を経て岱志高校理科部がその知見を引き継ぎ、里海である荒尾干潟の研究を行う。 荒尾干潟の温度変化計測や干潟ベントス（底生生物）の調査研究を行い、ベントスをエサとする渡り鳥の活動状況を観察し、生物多様性を知る。さらに、連携校との交流を通して、干潟生態系の状況が森里川海連環の一つの結果であることの実感を得る。また、これらの成果を本校 1 年生全員が履修する、カルミアプラン（総合的な学習の時間）でのフィールドワーク学習に繋げる。

実施内容；　7 月に本校が主催して、熊本県立大学環境共生学部地域連携・研究推進センター長の堤裕昭教授を招き、講義と荒尾干潟観察会を連携している 4 校合同で実施することができた。

また福岡県立伝習館高等学校の主催によって、京都大学名誉教授の田中克先生と韓国全南大學校水産海洋大學教授の尹良湖先生に監修・同行していただいて韓国スンチョン湾巡検研修を経験できた。これを荒尾干潟ラムサール条約登録湿地 5 周年記念シンポジウムで発表した。

さらにそれらの経験を活かして、11 月に開催されたアジア湿地シンポジウム 2017 において、これまでの荒尾干潟での生物多様性やベントスの生態に関する研究成果をポスター発表し、Best Poster Award（ベストポスター賞）と Audience Award(得票一位)を受賞することができた。

地域展開部門

Wetland and Youth（湿地と若者）セッションにおいては、荒尾干潟保全や有明海の素晴らしさを多くの人に伝える活動について英語でプレゼンテーション発表を行い、同時通訳で行われた円卓会議において、研究成果を活かしたアウトリーチ活動について言及した。大会終了時の宣言文８項目の７番目として若者の考え方や行動力による保全活動への貢献に期待する旨が盛り込まれた。

一方、本校１年の全生徒を対象としたカルミアプラン(総合的な学習の時間)内の「地域理解」カリキュラムとして、フィールドワーク学習を行い、より多くの生徒に海を実感し干潟を体感する機会を設けた。先ほどまで海底であったところを歩き、インストラクターから伝統漁法の指導を受け、巣穴に筆を差し込み自らマジャクを釣り上げ、翌日にはマジャクを天ぷらにして、それを食したもので、大変好評であった。

地域との連携； 今年度は、荒尾市での「ラムサール条約登録５周年記念シンポジウム」、「よかまち GOOD プロジェクト・プレゼンテーション発表」や佐賀市で開催された「アジア湿地シンポジウム２０１７」等で助成を受けた研究や活動の成果を発表できた。そのベストポスター賞等の受賞を荒尾市長への表敬訪問で報告できた。また、荒尾干潟での生き物観察会のボランティアスタッフとして、多数の行事に参加できた。

成果や課題； 繋がりの価値観を築く「森里海連環学」の精神を具現化するためにも森里川海の活動をそれぞれで行っている日田高校，八女高校，伝習館高校と連携して、１月２８日に予定されているカンファレンスにおいて、成果発表と意見交換をできることが大きな成果であると考える。また、本プログラムの趣旨が、各生徒の中にどのように育っていくのかを今後の課題として見守りたい。

熊本県立岱志高等学校　海洋教育スケジュール

「里海の大切さを認識し、ラムサール条約登録湿地となった荒尾干潟の環境調査を行う。」

【実施内容】

2012 年に荒尾干潟がラムサール条約登録湿地となってより、荒尾高校理数科が干潟の研究を行なってきたが、高校再編により荒尾高校理数科は 2016 年度で無くなり、岱志高校理科部がこれまで研究してきた里山のカスミサンショウウオと併せて、先輩からの知見を引き継ぎ、里海である荒尾干潟の研究を行う。 荒尾干潟の温度変化を調べ、バクテリア等ミクロベントスや濾過食性のマクロベントスの活動に関係あるのか考察し、それをエサとする渡り鳥の活動状況を観察して、生態的多様性を知ることで、森里川海の連環が大切であるとの実感を得ることができると考える。

同時並行して、1 年生全員が履修する、総合的な学習の時間での「地域理解」のフールワーク学習を行う。その学習に取り組むに当たり、理科部の研究成果を活用して里海の重要性認識の深化に繋げる。

【主な連携機関】
九州大学農学部望岡研究室，鳥取環境大学吉永研究室
熊本県立大学環境共生学部堤研究室，九州両生爬虫類研究会，
荒尾干潟賢明利活用協議会，日本野鳥の会熊本県支部
SPERA 森里海～時代を拓く～

2017 年 4 月　荒尾干潟のミクロベントスと物理的環境調査（通年）
　　カスミサンショウウオ飼育観察（通年）
　4 月　日本野鳥の会の観察会参加
　5 月　マクロベントス調査、
　7 月　熊本県立大学堤教授の講演と荒尾干潟生き物観察会
　　荒尾干潟渡り鳥観察会と海岸清掃ボランティア
　　参加校合同研修巡検(韓国インチョン湾)
　8 月　荒尾干潟生き物観察会ボランティアスタッフ
　9 月　荒尾干潟渡り鳥観察会（撮影記録）
　11 月　研究発表大会(口頭発表，ポスター発表)
2018 年 1 月　横島干拓でのツルの観察と記録作成
　2 月　地域カンファレンス（成果報告会）

【1 年生全クラスでの取組】
2017 年 4 月　総合的な学習の時間の概要説明
　　(荒尾干潟の地域における意義を確認)
　5 月～9 月　各班での調べ学習・テーマ設定
　　・フィールドワーク学習準備
　9 月　荒尾干潟での体験学習（フィールドワーク）
10 月～11 月　成果発表(ポスター発表)、文化祭展示
2018 年 1 月　里海の生態系的意義と地域産業との関連について
　　（食物網や生物生産量、海苔の生育等を学習）
　2 月　各自のプロファイリング作成（成果確認）